# 東洋医療専門学校　学校関係者評価委員会　会議資料①

令和6年度自己点検自己評価（令和6年4月1日～令和7年3月31日）による　　【令和7年7月13日実施】

評価委員　氏名　（小早川真一、大池　信也、前田　博規、能登路　賀一、森本　幸夫、松本　佳之、廣橋　久美子、樋川　眞早、車野　徹則、與那嶺　天音、金釘　直幸、川居　直人　）

| 項目 | 点検項目 | 自己点検 | 重点目標 | 評　価<br>優れている…3<br>適切…2<br>改善が必要…1 | 学校関係者評価委員よりの御意見 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1　教育理念・目的・育成人材像 | 1-2<br>学校の特色は何か | 運営目標の「4つの信頼」と3つの教育（教育理念）をベースに、育成人材目標の達成のため、独自の教育システム（PIBAP）を実践し、学生個人の自主性強化のためPOES教育システムを導入し、社会に貢献し各業界のニーズに即した人材育成を行っている。 | 本校独自のPIBAP教育システムをベースに作成されるカリキュラムに、キャリア教育の視点に立った内容を加え、さらなる職業人教育の質を高めていく。 | 2.8 | 【大学】<br>今の学生にいかに主体性を持たせるかとても難しいと思います。学校全体での共通理解のもと進めて下さい。<br><br>【歯科技工士学科】<br>同窓会役員として卒後教育の一端を担う立場にあるので<br>活発な同窓会になるよう、尽力していきたいと思います。<br><br>【救急救命士学科】<br>・自ら学び、行動する事を重要視しているのはとても良いと思います。<br>・目標はすばらしいが、学生の理解度がどの程度かを図ることが必要だと思います。<br><br>【鍼灸師学科】<br>・仕組みがしっかりあり、良いと思います。<br>・システム化された完璧なカリキュラムで全く問題ないと思います。<br><br>【柔道整復師学科】<br>・PIBAP教育システムはすばらしいと思います。<br>・学生の将来性を考えた非常に良い理念だと思います。<br>・入学から卒業までのサポートが手厚いです。<br>PIBAPを導入していることで東洋の卒業生は業界の先生方に高い評価をいただいていると感じました。 |
| 2　学校運営 | 2-7<br>人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか | 職員の評価に関しては、人事考課制度を採用し、自己評価および上司からの評価、同僚からの他者評価を踏まえ、年度ごとの課題を設定し、教職員の成長や貢献を見える化させることを目標とし実施した。<br>また、昨年は学生からの担任力評価、授業評価も加え、より多面的な評価となるよう心がけた。 | 教職員の成長こそが教育の質を高めることに繋がるため、入職後においても適宜研修を行い、常に成長を促していく。また人事考課シートで明らかになった個々の課題への取り組みにおいて、達成できたのか上長が面談を行い、人事評価に繋げ、他者評価により、利他的行動がとれる職場環境を目指していく。 | 2.8 | 【歯科技工士学科】<br>長期間非常勤でお世話になっていますが、常勤の先生の若返りが必要だと感じています。<br><br>【救急救命士学科】<br>多面的な人事考課システムが非常に良いと思います。<br><br>【鍼灸師学科】<br>・良い取り組みをしていると思います。<br>・多面的な評価と本人の自己評価との《差》は存在しているのでしょうか。本人たちの意見も聞いてみたいところです。<br>・非常勤講師のアンケート結果があるなら見せてもらいたいです。<br><br>【柔道整復師学科】<br>・教職員の評価について、常にレベルアップできるような<br>肯定的な評価も取り入れていただきたいです。<br>・非常勤の評価も教えていただきたいです。<br>・教員の道を目指しているからこそ多方面の評価はモチベーションアップに繋がり、学生へ向かう姿勢も変わると思います。<br>・様々な立場からの評価は素直意見で客観的に自分を見直せて良いと思いますが、評価に依存して欲しくはないです。 |
| 3　教育活動 | 3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか | 知識・技術面においてのみならず、人間性も含めた業界のニーズに対しては、教育課程編成委員会での意見や講師会議でのすり合わせにより、具体案が明確となり、指導方法にも工夫ができている。またキャリアセンターを中心に行っている業界ガイダンスや業界訪問を通じても多くのご意見をいただき教育に反映することができている。 | 業界の求める人物像という点においては、キャリア教育（求められる社会人像）において指導の工夫が必要である。1年次から業界と関わる機会を積極的に作ることや、業界アンケートなども定期的におこない、時代のニーズに合わせた教育を目指す。 | 2.8 | 【大学】<br>コミュニケーション力の養成も大きなポイントになると思います。<br><br>【歯科技工士学科】<br>定期的に会議が行われていて、情報交換が出来ており<br>すばらしいと思います。<br><br>【鍼灸師学科】<br>・学生の変化にあわせた対応力が良いと思います。<br>・実際の社会で働いているイメージ、現場での具体的な課題が意識出来ているかどうかが鍵になると思います。<br><br>【柔道整復師学科】<br>・時代のニーズに合せた教育は非常に良いと思います。<br>・柔道整復業界のニーズと本質は以前とかなり変化しています。業界のニーズだけでなく、学生の業界に対してのニーズを具体的に聞いてみてはいかがですか。<br>・学校外での意見を取り入れることで、学生が目指す道も広がると思います。<br>・どの職場で働くのも人間性はすごく大切になってきますので、今後もご尽力お願いします。 |
| 4　教育成果 | 4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか | 国家資格養成校であるため、国家試験の合格が専門職就職に直結する。具体的な取り組みについては、キャリアセンターと教務が連携し、就職情報を求人サイトで連絡、面談を通じ個々の要望に応じた求人の紹介、履歴書添削、就活メイク、面接指導、就職説明会などを開催し、幅広い選択肢から自分に合った場所を見つけられるようサポートしている。 | 歯科技工士学科、鍼灸師学科、柔道整復師学科については、質の良い就職先の確保が課題となる。また、毎年本校の卒業生を採用したいと思われる状況をつくっていきたい。救急救命士学科については継続して地方公務員採用試験に合格しうる教育体制を創っていくと同時に病院を含めた民間就職の拡充も目指していく。今後は業界から求められる人財の輩出はもちろん、職場とのマッチング、離職率もより注視した対応を目指していく。 | 2.8 | 【大学】<br>国家試験合格率が良好で何よりです。<br><br>【救急救命士学科】<br>・全国平均をほぼ上回っているのは学校の取り組みが良いからだと思います。<br>・救急救命士学科の公務員採用試験の対策は長年の経験で就職率も向上していると思うが、民間病院等の仕事内容を学生に詳しく説明し理解させ、就職枠を広げる必要があると思います。<br><br>【鍼灸師学科】<br>・学生の教育がしっかりしている。<br>・高い合格率、また、社会人としての常識を学校で教育してもらえることは学生にとって安心に繋がると思います。<br>・全員就職はすばらしいです。就職後のミスマッチも防いでいけるとなお良いです。<br><br>【柔道整復師学科】<br>・国家試験の合格率、就職先の確保ともに良いと思います。<br>・国家試験の合格率は全国的に見ても高いと思います。<br>質の良い就職先の定義を具体的に教えていただきたいです。<br>・学校の授業では学ぶことができない、社会人としてのマナーを教育していただけることは就職先としても嬉しい限りです。<br>・在学中はキャリアセンターの方にすごくお世話になりました。引き続きフォローをよろしくお願いします。 |
| 5　学生支援 | 5-26<br>学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 定期的な健康診断を行っているだけでなく、再診の促しやその後のフォロー、自己管理の教育を行っている。再診率は6年連続100%を達成できた。また附属整骨院や鍼灸院などもあり、学生健康相談や施術を行い、充実している。 | 今後も再診率100%を目指して取り組んでいかなければならない。 | 2.8 | 【歯科技工士学科】<br>産業医の役割や位置付けを詳しく教えていただきたいです。<br>再診率100%はすばらしいと思います。<br><br>【救命士学科学科】<br>再診率100%は良い取り組みだと思います。<br><br>【鍼灸師学科】<br>・不規則になりがちな学生の健康管理をすることが、患者さんだけでなく自身の今後の健康を顧みることが出来ると思います。<br>・保護者へのアプローチもできているのがすばらしいです。<br>7年連続を目指してください。<br><br>【柔道整復師学科】<br>・学生の健康管理も大事です。精神的なメンタルの部分もフォローをお願いします。<br>・整骨院は稼働しているのでしょうか。<br>　学生によく負傷部位をみてほしいと言われます。<br>・健康診断の内容が充実しており、すばらしいです。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 6　教育環境 | 6-33<br>防災に対する体制は整備されているか | 例年、年2回の防災訓練、教職員の救命講習など定期的に実施しており、設備としても各階にAEDを設置するなどしている。3年前から外部機関協力の下、責任者不在で災害が起こっても、どのような教職員でもこのカードを見れば必要なことがわかる本校オリジナルとなる『アクションカード』を作成し、それを用いた防災訓練を実施している。昨年度は災害時の情報共有ツールとしてLINEを活用した訓練を行った。また非常用物資の確認や火災発生時の対応がリアルに学べるARを用いた訓練も実施した。 | 今後もアクションカードを用いて、さまざまな想定をした防災訓練を実施していく。そこで出た課題からさらによいカード内容にし、必要な非常物資などを揃えるなどし、充実をはかっていく。また救命講習についてもスキルを落とさないように、3年に一度の更新講習を行っていく。 | 2.7 | 【歯科技工士学科】<br>備蓄（非常食等）に対しての現況を教えていただきたいです。<br><br>【救命士学科学科】<br>アクションカードだけでなく、現代の技術も取り入れた防災対策があればなお良いと思います。<br><br>【鍼灸師学科】<br>・ここまでの対応を知ると安心感があります<br>・南海トラフが確定されている中、必要な訓練だと思います。<br><br>【柔道整復師学科】<br>・アクションカードの作成はすばらしい取り組みだと思います。<br>・非常勤講師にもある程度指導していただけると助かります。<br>・大地震がいつきてもおかしくないと言われているこのご時世に防災訓練の経験が万が一の時に役に立つと思います。<br>・災害時は情報と連携が必要となってくるのですばらしいと思います。後は、教職員だけでなく学生にどれだけ自分事と認識させるかが大切だと思います。 |
| 7　学生の募集と受け入れ | 7-34<br>学生募集活動は、適正に行われているか | 大阪府専修学校各種学校連合会の規定に基づき、適正に行っている。広告倫理委員会・個人情報保護委員会などを設置し管理している。適性を判断するための判定会議が設置されている。 | 学力レベルの低下に対する合格決定後の指導の充実はもとより、入学前における職業への理解や意思の確認、モチベーションの持続に努力しなければならない。修学支援制度の拡充（多子世帯）など、行政支援の理解も深め、適切な情報提供ができるよう、今後も知識を深めていく必要がある。 | 2.7 | 【大学】学生レベルの低下、モチベーションの持続については、コロナで学校生活を過ごした生徒たちに対して苦労されていると思います。今後とも粘り強く継続していただきたいと思います。<br><br>【鍼灸師学科】<br>・良いと思います。<br>・出来るフォローの実施は必要ですが、少し過保護になりがちな気もしています。バランスが大事だと考えます。<br><br>【柔道整復師学科】<br>・資格に対しての目的を明確にしてモチベーションの持続が必要だと感じます。<br>・学生を集めることが他校より上手だと思います。当院に来院している学生さんもオープンキャンパスに伺い、良かったと聞いています。<br>・柔道整復師学科に限らず、夜間部入学者が少ないことを懸念しています。夜間部での魅力を伝えることが重要です。<br>・東洋医療を選ぶ理由を教えて頂きたいです。 |
| 8　財務 | 8-38<br>中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 学校全体の財務状況は健全であるといえる。また収支計画書に沿った運営が出来ている。<br>昨年度、一昨年度においては学校定員の90%という結果であったが、今年度は学生募集の早期化、入学前教育の充実化を図り、順調に進んでいる。 | 学生募集の成功および中途退学者の減少を目指す。 | 2.5 | 【大学】<br>今後も入学者数が増えるようご尽力ください。<br><br>【救命士学科学科】<br>・退学者減少の対策は、まだ工夫すべき点があると思います。<br>・学生とのコミュニケーションが少し不足しているように感じました。学生の精神面を理解しつつ、一人ひとりを大切にしていただきたいです。<br><br>【鍼灸師学科】<br>・色々考えて対応しようとしているのが感じられます<br>・本人の資質なのか離職する者が多いように感じます<br>・退学者対策も検討していただきたいです<br><br>【柔道整復師学科】<br>・学生の中途退学者に対しての減少は大事ですが<br>学生の年度ごとの目標の再確認も重要だと感じます。<br>・以前より、退学者が多いと感じています。<br>学生のメンタルの弱さは影響していると思いますが、業界で行われている内容と学校で学ぶ内容のギャップを埋める必要があると思います。<br>・受け入れと退学者を出さないことが重要です。この二面からの対策とPDCAサイクルを回すことが必要です。 |
| 9　法令等の遵守 | 9-43<br>個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 個人情報保護法に基づき、厳重な管理体制となっている。学校内で個人情報保護規定を定め個人情報保護委員会が中心となり運用している。オリエンテーションにおいて学生にも個人情報保護の教育を実施している。<br>また昨年度から滋慶学園グループで情報セキュリティ問題を専門に扱う滋慶CSIRTが設立され、個人情報レベルの具体的な設定、管理報告体制の強化がなされた。 | 学校は個人情報の集積であるとも言える。教職員や講師、学生において更なる理解が必要である。教職員全員が個人情報の知識向上のため「認定CPAアカデミック（個人情報取扱従事者）資格」を取得。 | 2.8 | 【柔道整復師学科】<br>・個人情報の取扱い、管理の強化や対応策を考えましょう。<br>・問題ないと思います。<br>・専門家に任せることでよりになると思います。 |
| 10　社会貢献 | 10-46<br>学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか | 学校の教育資源を活用した教育機関や企業、業界との連携は重要であると考え取り組みを行っている。<br>学校全体の取り組みとしては淀川区との連携協定により、認知症サポーター養成講座を教職員、学生が受講。その知識を生かし、地域の65才以上の方を対象とした東洋ち一むオレンジを開催。16名が参加される満足度の高い催しとなった。<br>また献血活動においては5月10月の2日間実施し、合わせて154名の方々に協力いただいた。 | 専門教育のみならず、目指す業界の動きや情報を得ることは重要である。今後も企業や業界との連携を強化していきたい。<br>滋慶学園グループが大阪市淀川区と連携協定を結んだことを契機に、今後も東洋ち一むオレンジを通じて地域との交流を学校全体で取り組み、教育の内容（臨床実習の模擬患者役など）にも生かしていく。 | 2.8 | 【救命士学科学科】<br>全学科でボランティアに取り組んでいくのは良いと思います。<br><br>【鍼灸師学科】<br>・社会貢献への取り組む姿勢が良い認知になると思います<br>・地域との関わりを定期的に持つことで、鍼灸等の代替医療への認知も高まり、受験へのハードルが下がる良いと取り組みだと思います。<br>・「東洋ち一むオレンジ」は良い取り組みなのでもっと活動して欲しいです。臨床実習を地域の方にも認知してもらえると嬉しいです。<br><br>【柔道整復師学科】<br>・地域の方々との交流があることで、色々な方と直接触れ合えるのは良いことです。<br>・社団（柔道整復師）との連携等も視野に入れてみてはいかがですか。全学科で行えると良いですね。<br>・学生のうちから社会貢献の経験が得られると思います。<br>・もっと参加者が増えて欲しいです。お互いにとってメリットがあるので学生も積極的に参加して現場の雰囲気を味わって欲しいです。 |
| 11　国際交流 | 11-48<br>グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか | 従来は各学科の専門性を考慮した海外研修が行われていたが、コロナ以降、価格帯や世界情勢の影響で実施できておらずオンラインでの研修や海外講師を招聘し特別講演会などを実施してきたが、昨年は鍼灸師学科、柔道整復師学科合同でタイ研修を実施。満足度の高い内容となった。 | 現状で実施できる各学科海外研修の更なる充実に向けたイノベーションが重要。これまでの取組みにこだわらず、渡航しやすい国などを検討し、学生にとって有益なプラグラムを構築していく。 | 2.8 | 【鍼灸師学科】<br>・頑張っている姿勢が見受けられます。<br>・修学旅行的のような要素も含んでおり、とても良いと思います。<br><br>【柔道整復師学科】<br>・海外の異文化に触れ合うことは良いことだと思います。<br>・グローバル化に対して、世界の治療法を学ぶのも大事だと思います。どちらかというと施術方法の多様化は現在のニーズにあっているのではないでしょうか。<br>・国際交流することで視野を広げることができると考えます。 |

# 東洋医療専門学校　学校関係者評価委員会　会議資料②【歯科技工士学科】

令和6年度自己点検自己評価（令和6年4月1日～令和7年3月31日）による

評価委員氏名【 大池　信也　、前田　博規　】

| 項目 | 点検項目 | 自己点検 | | 評価 | 学校関係者評価委員よりの御意見 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | DT | 重点目標 | 優れている…3<br>適切…2<br>改善が必要…1 | |
| 3　教育活動 | 3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか | 業界のニーズは非常に幅広く、求められる人材も多種多様である。また、卒後は、即戦力となれるよう、基本的な知識・技能の修得に力を入れている。加えて、入学当初から社会人基礎力の習得を目指して、人間教育の原点であるキャリア教育、コミュニケーション力の向上に力を注いでいる。 | 第一学年から実際に歯科治療に携わるスタッフによる特別講義や職場見学等を通して、歯科におけるチーム医療の一端を担える職業意識の高い人材の育成を目指している。 | 2.5 | 特記事項なし |
| | 3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか | 3 年という教育期間の中で就業に必要な知識、技術のすべてを教授することは難しいが、重要な分野を明確にし、実技試験において評価の基準を明示し、学生に公表している。 | 実技試験の作品評価については、総評および個人講評を行い、技術の向上を促している。認定実技試験では、比較的高い評価を得ている。<br>最高学年の課題研究では、問題解決能力の習得を目指して取り組み、卒業研究発表会を継続して開催し成果報告としている。 | 2.5 | 特記事項なし |
| | 3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか | カリキュラムの編成については、国家資格取得を第一に、業界のニーズ、社会的なニーズ、人間としてのニーズなど、キャリア教育的な観点も取り入れつつ体系的な組み立てがなされている。 | 歯科材料メーカーの協力を得て、基礎から応用に至るデジタル技工の講義・実習を段階的に行っている。 | 2.0 | 特記事項なし |
| | 3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか | シラバスを作成することにより、学生にそれぞれの授業の目標や評価方法を理解させることができる。また、各教員が学生主体に効率よく理解させるよう工夫している。 | 今後もそれぞれの授業の位置づけを明確にしながら、連携を継続していこうと考えている。教科目標と内容が解離しないよう留意しなければならない。 | 2.0 | 【前田】<br>学生が目標を明確化できるようなシラバスの作成を期待します。 |
| | 3-14　キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか | キャリア教育の真価は業界の評価にあるといって良い。そのために卒業生の勤務先や、あるいは業界全体の情報に耳を傾けていかなければならない。 | 本校では教員だけでなく、キャリアセンターが積極的に情報収集を行い、就職説明会等でその伝達に努めている。 | 3.0 | 【大池】<br>毎年就職説明会に参加させていただき光栄です。<br>今後もキャリアセンターと連携して就職活動に取り組んでください。 |
| | 3-15　授業評価の実施・評価体制はあるか | 学生の評価が業務の直接の評価であると考える。また評価が高ければ学生の満足度にもつながる。学生満足度アンケートを継続している。<br>今後もZOOM遠隔授業が再度必要になったとしても、対応できるよう学生の反応や習熟度をもとに、構成や効果等に工夫を加えて実施できるよう備えておきたい。 | 対面授業を基本とし、知識と技術を伝授しているが、teams等での配信を有効利用し、より一層見やすく理解し易い授業の進行に努めていきたい。 | 3.0 | 【前田】<br>デジタル化に対応できる人材を今後も育成してください。 |
| | 3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 業務をおこなう上で最も大切なことはソフト面＝人材であり、良い人材を採用していくことはもちろん、さらに成長していける環境作りが重要である。そのための意識は専任教員・非常勤講師ともに高い水準を維持できている。<br>今後も各場面での重要ポイントや指導法等の改善点なども共有していきたい。 | 教育指導における専任教員と外部講師のバランス調整や配置は重要だが、授業の役割を明確にすることで、効果的な教育を提供することができている。 | 3.0 | 特記事項なし |
| 4　教育成果 | 4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか | 就職の情報は掲示板で連絡、就職説明会の実施、キャリアセンターの設置など、就職には力を入れている。早期の就職活動、内定獲得も比較的うまくいっているように思われる。やはり、質のいい就職先の確保が課題となる。また、毎年採用したいと思われる状況をつくっていきたい。 | コロナ禍の影響もあり、一時的にSNSを利用した企業説明会や求人活動を行う就職先が増加していたが、従来の対面形式に戻ってきており、卒業生からの情報にも柔軟に対応出来ている。今後も卒業生の満足度を把握するためも、卒業後の情報収集が円滑に行えるよう同窓会と連携していきたい。 | 2.5 | 【大池】<br>卒業生の特別講義など卒業後も変わらぬ関係性を築けていることは良いことだと思います。 |
| | 4-20　資格取得率の向上が図られているか | 国家試験合格率は、高水準を維持することができているが、全員合格が不可欠である。今後、中学・高校において、習慣的な学習や定期試験に向けての計画的な勉強の経験が少ない学生が入学し、国家試験取得を目指していく。修学するモチベーションや集中力の低下を起こさないよう、講義・実習授業の環境づくりと前向きに取組める授業の継続を目指したい。 | 修得した技術・知識を活かして就職し業務に従事するには、歯科技工士国家資格の取得が前提である。学習を継続しながら、就職活動に取り組めるよう、就職実績のある企業を中心に、教員とキャリアセンターが連携して、現場訪問を行ったり、最高学年対象の企業説明会を継続開催することで、早期就職決定に繋げていく。 | 2.5 | 【大池】<br>今後も国家試験・就職率ともに100%を継続されることを期待しています。 |

# 東洋医療専門学校　学校関係者評価委員会　会議資料②【救急救命士学科】

令和6年度自己点検自己評価（令和6年4月1日～令和7年3月31日）による

評価委員氏名【　能登路　賀一、森本幸夫　】

| 項目 | 点検項目 | 自己点検 | | 評価 | 学校関係者評価委員よりの御意見 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | ELT | 重点目標 | 優れている…3<br>適切…2<br>改善が必要…1 | |
| 3　教育活動 | 3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか | 業界のニーズは公と民間で異なるため、非常に幅広い。資格を取得しただけでは就職が(公務員試験の倍率が高く)困難である。したがって、救急救命士として基本的なことは勿論、社会人としても非常に高い一般知識・教養を求められる上にかなりの体力(体力試験)も要する。国家試験の出題基準は2年毎に改定され、問題数の割合も変更となっている。そのため、対策の変更を学科内で定期的に会議を実施し、現状と対策の改善点について情報共有している。業界の求める救急救命士の養成には更なる努力が必要である。 | ①公務員対策の更なる充実を図る。<br>※特に面接強化が必要。<br>②即戦力としての要素を備える教育を行う。<br>※現役消防職員を招いて救急現場の症例をもとに訓練を行う。（最終学年）<br>③業界の求める人材をリサーチしカリキュラム再構築する。<br>※消防機関だけでなく医療機関・民間でも通用する人材育成を強化する。<br>④3年前期までに国家試験合格レベルに到達できる教育を担保する。 | 2.5 | 特記事項なし |
| | 3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか | 3年の教育期間の中で夜間部でも最低限の基本的な内容は網羅したカリキュラムとなっている。昼間部においてはさらに実習や公務員試験対策にゆとりを持った内容となっている。いずれの科目も到達目標・評価の基準を公表、実習においては客観的な評価が行えるよう効果測定の基準を設けている。 | ①国家試験対策語義試験などで学習効果を見極める。<br>※1.2年：6回／年　　3年：18回／年<br>②夜間部の成績の伸び悩みはあるが、昼間の時間を工夫し授業外の補習の強化を図っている。<br>③シミュレーション実習において、軽傷傷病者対応が苦手な学生が多い。傷病者とのコミュニケーションが取れないのが現状。外来講師を招いて現場を想定した訓練で更に強化していきたい。 | 2.0 | 【能登路】<br>公務員試験に向けて、国家試験対策を3年生の初めに行い<br>一定レベルに到達させるのは良いと思います。<br><br>【森本】<br>実習をより一層充実させるべきだと考えます。 |
| | 3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか | カリキュラムの編成は学科の教育目標を基礎に、資格取得に関わる指定基準を満たしている。全ての履修科目を必修とし、学生に統一した内容が教育できるようにしている。また、授業時間以外にセミナーや補習を設けて学生のレベルの統一化を図っている。 | ①履修科目が昼・夜間部により異なることがあるため、理解度に差異がでないように専任教員がカバーをしている。<br>②各種セミナーの種類や回数を増やし授業外の教育の充実を図る。 | 2.5 | 【能登路】<br>昼・夜間部の差異を失くす取り組みは良いと思います。 |
| | 3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか | 各科目は適正な位置づけをされている。全科目において本校ホームページで公開。学生にもシラバスの重要性についてオリエンテーションで周知することを継続している。<br>コマシラバスについても必要性の説明と協力依頼(専任がまず作成)の継続が必要である。 | ①各講師には【統一シラバス】をもとに授業構成をお願いしている。<br>②専任教員も担当科目を持ち、学生目線に立ち指導している。 | 2.5 | 特記事項なし |
| | 3-14　キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか | 実習の中で職業人としての自覚や態度を涵養しつつ、専門知識・技術を生かすためのコミュニケーション、問題解決能力をつける指導を行えて効果を挙げている。グループ全体でキャリアロードマップを作成導入し、その重要性の認識を共通とした教育の実践を行っている。 | ①PIBAPをもとに実践力を付ける。<br>（入学前教育・導入教育・基礎教育・応用教育・卒後教育）<br>②就職説明会・講演・イベントボランティアに参加することで社会とふれあい、職業人としての知識・技術を身に付ける。<br>③職業人として必要である意思決定能力や課題に積極的に取組み克服する精神力の教育に務める。 | 2.5 | 【森本】<br>学生がイベントボランティアの意義を理解しているのか、欠席する学生はいないのか気になりました。 |
| | 3-15　授業評価の実施・評価体制はあるか | 学生による授業評価から得られる情報は教育システムの確立・見直しに有用と考えている。ただし、医療系国家資格を取得する学科として学生の多様性問題(学習習慣の欠落、集中力の低下及び持続不能)による低評価も考えられるため内容の分析には十分な検討が必要である。 | ①年に2回（前期・後期）学生満足度アンケートをもとに授業評価を得ている。<br>②キャリアサポートアンケートにより、学生個人ごとのサポート領域とキャリア教育領域について評価結果を数値やグラフで可視化し確認をしている。<br>アンケート結果を踏まえて定期面談を実施している。 | 2.5 | 特記事項なし |
| | 3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 本校の建学の理念「実学教育」に基づき、消防・臨床現場にいた教員で学科教員を構成してきた経緯があり、それぞれの現場での経験は豊富であるが統一した教育への努力が継続して必要である。また、現場を離れて年数が経つと、日々の業務に忙殺され、新しい取り組みが後回しになることがある。現状の業務と新しい取り組みとのバランスのとり方が今後の課題となる。いずれにしても各立場から「理想的な救急救命士の教育とは何か」を常に考え他者と協議しながら教育を実践していかなければならない。 | ①救急救命士関係機関との連携を強化する。<br>②研修・学会等の参加で得た情報は学科内で共有し学生指導に還元している。<br>③教員は各種セミナーを通して知識・実技の確認と質の担保を図っている。<br>④シミュレーション実習については、学生への指導内容を事前に協議し、実習における効果測定のあり方について見直しを図っている。 | 2.5 | 【能登路】<br>各関係機関とのつながり、教員のスキルアップが積極的に行われており、すばらしいと思います。 |
| 4　教育成果 | 4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか | 専門性を活かせる就職先が公的機関（消防）である場合が多い。自治体単位での試験遂行のため、就職試験の多様化・複雑性があり、対策を立てる上での困難がある。これについては公務員対策教員との情報共有に努めている。卒業生を含めて少しずつ希望職種に就職できるように指導できている。<br>今後は知力・体力・精神力共に更なる向上が得られるよう努力を要する。<br>就職説明会、および来校いただける消防などとの関係性を良好に保ち、指導に役立てており、就職率も60%以上を維持できている。 | ①卒業生から各消防機関の情報を収集し、学生へ情報提供をしている。<br>②各種イベント（OBOGガイダンス、就職説明会）をより充実させる。<br>③医療機関で活躍する院内救急救命士が増える中、各医療機関に訪問し情報収集し消防以外の就職を希望している学生へ還元している。<br>※各医療機関により業務内容が異なるため見極めが必要である。<br>④民間（救急搬送会社等）の情報収集も行い、就職の選択幅を持たせる。 | 2.5 | 【能登路】<br>消防、医療機関の情報を学生にプレゼンできる機会があるのは良い取り組みだと思います。 |
| | 4-20　資格取得率の向上が図られているか | 3年進級者が全員国家試験に合格できるよう専任・講師を含めてさらに努力を要する。学生においても低学力の学生への対策にマンパワーが吸収されているので人員の確保を含め、StudentTeacher制度など他校との情報交換を密にし、継続していく必要がある。 | ①1年・2年次での学習を徹底し、3年進級時には国家試験合格ラインまで到達できるように取り組む。<br>②卒業判定は一定基準を設け、対策を行う。<br>③例年の対策を基盤とし、その年の学生状況に合わせながら更にブラッシュアップしていく。<br>④模擬試験問題を通して学生の自己分析支援を行っている（年6回） | 2.5 | 特記事項なし |

# 東洋医療専門学校　学校関係者評価委員会　会議資料②【鍼灸師学科】

令和6年度自己点検自己評価（令和6年4月1日～令和7年3月31日）による　　評価委員氏名【 松本　佳之、廣橋　久美子、樋川　眞早 】

| 項目 | 点検項目 | 自己点検 | | 評価 | 学校関係者評価委員よりの御意見 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | AMT | 重点目標 | 優れている…3<br>適切…2<br>改善が必要…1 | |
| 3　教育活動 | 3-10　各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか | 業界の人材ニーズは社会人基礎力（マインド・スキル）・コミュニケーション力が備わった人材である。次に、基本的な知識技術が備わっており、幅広く柔軟、かつ即戦力となる知識・技術を備えていることである。人間性や社会性・技術や知識双方を備えた人材育成が重要であると考える。柔軟な思考を培うとともに、卒業後に遭遇するさまざまな場面に対応できるように指導している。 | 育成する人材が業界のニーズに合致しているか、その判断基準は、卒業生が各業界でどれだけ活躍しているか、そして雇用主からどのような評価を得ているか、という点にあります。<br>自己満足に終わらない教育効果を確立するため、卒業生の就職先を積極的に訪問し、ヒアリングの機会を増やすことで、現場の生の声に基づいたエビデンスを収集します。これにより、教育内容が実際の業界で求められるスキルや知識と乖離していないかを定期的に検証し、改善に繋げていきます。<br>さらに、業界との連携をより一層強化し、交流を深めることで、常に最新の業界動向やニーズを把握し、教育プログラムに反映させていく事を目標としています。 | 2.7 | 【松本】<br>卒業生の就職先への訪問はすばらしいことだと思います。<br>卒業してから感じることも沢山あると思うので、在学中に取り組んでおくべきことなど、在校生にも知る機会を設けていただきたいです。 |
| | 3-11　修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか | 科目ごと、学年ごと、そして卒業までの到達レベルをシラバス等で明示する。社会や現場で求められるレベルまで高めることが養成校の責務。3年間を通じてそれぞれの目標を設定し、定期試験や模擬試験、認定試験・進級試験・卒業試験などにより確認している。最終的に本学科の養成目標である「社会から求められる鍼灸師」の輩出につなげる。 | 本校では、学生が無理なく成長し、最終的な養成目標に到達できるよう、3年間を通じた教育の流れと段階的なレベル設定を重視しています。<br>現在設定されている目標が、それぞれの時期に適切であるか多角的に見直し、学生の成長段階に合わせた無理のないカリキュラムとなっているかを常に検証します。<br>学生、卒業生、業界関係者など多様な意見を積極的に取り入れ、教育内容を継続的に改善することで、社会の変化や業界ニーズに柔軟に対応できる、質の高い教育を提供していきます。 | 2.7 | 【樋川】<br>学生一人ひとりの対応をこまめにされていると感じています。 |
| | 3-12　カリキュラムは体系的に編成されているか | 設定された到達レベルに効率的に達成するために、適切な時期と適切な方法によるカリキュラムを編成している。そうして編成したカリキュラムが機能しているか、あるいは適切であるのか定期的に見直し、不十分な点があれば随時改善している。 | 本校では、カリキュラムが適切であるかを継続的に検証しています。この検証プロセスには、専任教員だけでなく、講師、他校の教員、そして卒業生といった多方面からの意見を積極的に取り入れています。<br>これらの多様な視点からの意見を収集し、議論を重ねることで、カリキュラムの改善点や強化すべき点を特定します。そして、そこで得られた知見をカリキュラム編成に反映させることで、常に時代や業界のニーズに合った、質の高い教育を提供していきます。 | 3.0 | 【廣橋】<br>今後も業界や時代のニーズにあった良質な教育を提供できるよう、取り組んでください。 |
| | 3-13　学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか | それぞれのカリキュラムの内容が独立して成り立つものであると同時に、縦、横のつながりをもたせるよう位置づけする。シラバス・教務日誌によりおたがいの指導内容や進行状況を把握できるようにしている。 | 学生の適正な学習位置づけはあくまで平均値であり、学習進度が一致しない学生も少なからず存在します。そのため、本校ではそれぞれの学年・時期ごとに学習進度をきめ細かく点検する機会を設けています。<br>教員間の密なコミュニケーションを重視して、情報共有を活発に行っていきます。 | 2.7 | 特記事項なし |
| | 3-14　キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか | キャリア教育が特に必要とされる昼間部の学生に対して、コミュニケーション学の授業のなかでおこなっているほか、接遇マナー教育・就職ガイダンス・コミュニケーション教育・マネジメント教育、社会人直前講座・キャリアNAVI・退職マナー講座などを通じておこなっている。特別に機会を設けておこなうだけでなく、日ごろの学園生活そのものがキャリア教育となっているべきであると考える。 | 近年、キャリア教育の重要性が増しており、本校では特別な講座だけでなく、日々のきめ細やかな指導を通じてキャリア教育を推進しています。この取り組みには、社会の困難を乗り越えるレジリエンス（精神的回復力）の育成も含まれます。<br>その一環として、コミュニケーション学の授業でメンタルヘルス資格（こころ検定）の取得を支援しています。これは、学生が心の健康の重要性を理解し、自己理解を深めることで、自身のキャリアを考える上で、レジリエンスを高めることを目指しています。 | 2.7 | 【廣橋】<br>全体会でもお話があり、とても興味深く聞かせていただきました。学生の背景を理解しつつ、寄り添った対応をお願いします。 |
| | 3-15　授業評価の実施・評価体制はあるか | 学生アンケートを年1度実施しており、不適切なものに関しては改善策を話し合い実行している。専任教員への公開は出来ているが、非常勤講師への公開の仕組みが出来ていない。 | 現在、学生アンケートの結果が講師の先生方に十分に共有されていない状況にあります。ご希望があれば結果をご覧いただけますが、これまでのところ申し出はございません。<br>学生にとってより良い授業を提供するため、アンケート結果を基にオープンな議論の場を設けることが不可欠だと考えます。これにより、講師と学生双方にとって有益なフィードバックを循環させ、授業内容の改善に繋げます。<br>この取り組みを通じて、学生の満足度向上と学業実績の向上を目指し、様々な工夫を凝らします。今年度はアンケートを2回実施予定です。 | 2.7 | 【廣橋】<br>学生の理解度を確認するためにも、学生アンケートの結果を積極的に講師の先生方に共有すべきだと思います。 |
| | 3-16　育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 教員の資格要件を満たしているというだけでなく、実績や教育力を備えた教員を確保している。実技科目に関しては、経験が豊富で指導力のある外部講師が担当し、講義科目についてはそれぞれオリジナルテキストの作成や教材研究により各自スキルアップしている。 | 専任教員は、その知識を深めるだけでなく、授業スキルの向上にも積極的に取り組む必要があります。グループ全体の研修会への参加はもちろんのこと、学内においても教員同士が相互に指導し合える機会を積極的に設けます。<br><br>学生の満足度とモチベーション向上を目指すために、実績と実力を兼ね備えた講師を積極的に採用し、特別講義を数多く実施します。 | 2.7 | 特記事項なし |
| 4　教育成果 | 4-19　就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか | 就職担当教員に加え、キャリアセンターも設置し在校生の就職、あるいは卒業生の職場の転向も含めてサポートしており、就職率100%が継続している。学生ポータルなどITツールを用いて学生が就職活動に取り組みやすい状況を提供している。 | 本校では、学生の早期内定獲得に力を入れています。業界のニーズに合致するよう、6月に就職説明会を実施し、早期からの就職活動を推進しています。<br>また、ITツールを積極的に活用することで、学生が就職活動に取り組みやすい環境を整備しています。これにより、学生は早期に内定を獲得し、より質の高い就職先を確保することが可能となります。<br>早期から就職活動に取り組むことは、学生自身の学習や実践に対する意識付けにも繋がり、結果として学業へのモチベーション向上にも寄与すると考えています。 | 3.0 | 特記事項なし |
| | 4-20　資格取得率の向上が図られているか | 資格取得にむけた対策を十分おこない、安易に留年生を多くだすことによって合格率100%を目指すのではなく、全員受験を本分としてきた。最終目標は入学者全員が卒業し、全員合格することである。そのための体制を整え、難易度が年々上がる国家試験に対応していかなければならない。 | 昨年度は、昼間部で1名、夜間部で4名（うち留年生3名）が国家試験に不合格となりました。特に、留年をし4年目の受験にもかかわらず、成績の伸び悩みが見られました。この反省を踏まえ、今年度は留年生への国家試験対策を早期から開始します。これにより、個々の学生の状況に合わせたきめ細やかな指導を行い、学力の向上を図ります。<br>本校は、3年生の全員受験・全員合格を目標に掲げ、万全のサポート体制を構築していきます。 | 3.0 | 【松本】<br>留年生の対応はより一層大変だと思いますが、よろしくお願いします。 |

# 東洋医療専門学校　学校関係者評価委員会　会議資料②【柔道整復師学科】

令和6年度自己点検自己評価（令和6年4月1日～令和7年3月31日）による　　評価委員氏名【車野 徹則、金釘 直幸、與那嶺 天音、川居 直人 】

| 項目 | 点検項目 | 自己点検 | | 評価 | 学校関係者評価委員よりの御意見 |
|---|---|---|---|---|---|
| | | JT | 重点目標 | 優れている…3<br>適切…2<br>改善が必要…1 | |
| 3 教育活動 | 3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか | 業界ニーズを把握しつつ、臨床者として必要となる人間力の強化に主眼を置き、柔道整復師の業務範囲を逸脱することのないように、基本的な知識、技術を習得させるように努力が必要と考える。<br>人間力については特にコミュニケーション能力が人と関わる上では最重要事項であると認識しており、それが即戦力としての強みになるよう、教育している。 | 学生のほとんどが高校卒業後すぐに入学するため比較的イベントなどにも積極的に参加する学生が多くみられる。そこで、初年度の意識付けとして日本ストレッチング協会セルフ資格（JSA-CSTS）の任意講習会を実施して業界のニーズに沿った教育を目標としている。 | 2.8 | 【車野】<br>色々な講演会を開催されることは良いことだと思います。<br><br>【金釘】<br>本来の柔道整復師としての業務に関わるセミナー等を基本に、現場で実際に必要とされる技術も取り入れた方が良いのではと思います。（学生にも聞いてみてはいかがでしょうか）<br><br>【與那嶺】<br>知識・技術だけではなく人間力を高めることで、卒業後も就職先でも発揮できると考えます。<br><br>【川居】<br>人間性・社会性の構築はもう少し必要性を感じています。偏りが出ないようにイベントの工夫をお願いします。 |
| | 3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか | 国家資格取得が業界に入るための最低限の知識レベルである。また最低限患者とコミュニケーションを図ることができるものが一般的な社会人としてのレベルと考える。学内での教育は学生が上記を獲得できるところを到達レベルとし、モチベーション高く業界へ参加することを目的とさせる。<br>偏った知識や技術をカリキュラム内で教えるべきではないと考え教育している。 | 新年度が始まる際に各学年における到達目標・数字基準を明確に伝え、また規約として提示している。<br>カリキュラム内のみで業界の求める即戦力の人材育成は難しく、授業外で業界セミナーや勉強会を積極的に学生にも発信し、よりどこまで到達しているのが適切であるのかを示すことができるよう構築する。 | 3.0 | 【車野】<br>色々な場所で臨床をすることでカリキュラム以上の多くの学びを得られると思います。<br><br>【金釘】<br>入学時に学生さんが抱いている、理想に近い施術方法のアンケートを取り、意見を聞いた上でセミナー内容を決定するのはいかがでしょうか。<br><br>【與那嶺】<br>目標が明確に決められていると学生もその目標に向けて勉強しやすいと思います。勉強が苦手な子は、自分で目標を決めることができないため、サポートしてあげる必要があります。<br><br>【川居】<br>到達目標に対する行動目標等、具体的にどう行動するかも個人間で示せたらより良いと思います。 |
| | 3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか | 3年間のカリキュラムは入学前から卒業後までを俯瞰的且つ論理的に編成、展開される。柔道整復師業界のみならず他の養成施設との意見交換、交流を図るのはもちろんのこと、他資格業界との交流を十分に行い、日頃より業界のニーズや柔道整復師としての役割を考察し社会の変化に合わせたカリキュラムを展開すべきと考える。 | カリキュラムによる教育成果を年度ごとに勘案、見直しを行っており、年々成果が上がっている。<br>目標達成により近づくためにカリキュラムの拡充を行い、より密度の高いものへの完成を目指すことを目標とする。 | 2.8 | 【車野】<br>医療現場の変化や社会のニーズに合わせて進化することは良いことだと思います。<br><br>【金釘】<br>学生の声として1年生から2年生進級時に急に内容が難しくなると耳にします（全体会の時に説明されていたように、学習内容が段階的に難しくなっているのでしょうか）<br><br>【與那嶺】<br>多方面で活躍されている先生方の話を聞くことで学生の中での将来像が確率しやすくなると思います。<br><br>【川居】<br>年度で見直しをされていてすばらしいと思います。<br>現在も臨床に携わられている非常勤講師の先生の意見も取り入れられているか気になります。 |
| | 3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか | 前期科目から後期科目、さらに上の学年に向けての各科目が橋渡しとなるよう、3年間のカリキュラム内で適正な位置付けとなるよう組み入れており、学生には教育指導要領で明確に提示している。 | 授業依頼の段階で授業内での齟齬が出ないようコマシラバスを作成し、開講初日までにはシラバスを回収し内容を共有している。年度ごとに到達目標にそったシラバスを作成することを目標とする。 | 2.8 | 【車野】<br>学生のモチベーションを低下させないよう、シラバスの作成時、工夫していただきたいです。<br><br>【金釘】<br>私事で申し訳ありませんが、総論2の内容と総論1・3の内容の同時進行は大変です。1・3で習うことが後になり、その説明もするため、少し時間がかかります。<br><br>【與那嶺】<br>シラバスを作成することで、「先生によって教えていることが違う」などの問題を防ぐことができると思います。<br><br>【川居】<br>学生にとっても、被っている授業がなければ、前進している感覚があるので聞き入れやすいと感じます。 |
| | 3-14 キャリア教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法などが実施されているか | 業界または卒業生からのアンケートにてキャリア教育に不足しているものや、さらに伸ばすべきものを聴取し反映させ、人間力強化に主眼を置いてキャリア教育をカリキュラムの主軸の一つとして展開している。ただし、自立性や自主性に関して臨むレベルに達していない現状がありさらなる工夫が必要である。 | 在学中におけるキャリア教育の実効性は3年次に行われる認定実技試験などで確認を行い、卒業後はキャリアセンターを中心とした業界評価にて検証を行いつつ教育にフィードバックすることを目標とする。 | 2.5 | 【車野】<br>卒業生の意見を取り入れるのは良いことですが、学生が自主性を持てるような取り組みが必要だと思います。<br><br>【金釘】<br>手技やテーピングで現場で使える内容、実際に具体的な症例に対しての病歴聴取方法もあると良いと思います。<br><br>【與那嶺】<br>テーピング、エコー、手術など＋αでの授業を行うことで、授業だけでは習得できない知識・技術を得ることができると思います。<br><br>【川居】<br>段階的かつ計画的に実施されているので、学生も反復的に取り組むことができます。<br>PDCAを回すという観点で、フィードバックができているのは良いことだと思います。 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 3-15 授業評価の実施･評価体制はあるか | 年2回の授業評価アンケートの実施を行っている。授業評価を振り返ることでよりよい授業を実践する。<br>教授方法のマニュアルはなく各教員のスキルで実施している。但し授業評価を実施し教員へフィードバックにより改善を図っている。 | 授業評価にて満足度を上げるのは、学生に寄り添ったものであれば簡単にできる。さらに一歩進めて学生自身が授業を受けたいと思える仕組みの構築を目標とする。 | 2.5 | 【車野】<br>学生からアンケートを取ることにより、教員のレベルアップや授業内容の再確認ができるため、とても良い取り組みだと思います。<br><br>【金釘】<br>非常勤講師にも、評価表を見せていただきたいです。<br><br>【川居】<br>一番は学生目標で授業ができていて、一つひとつの授業の必要性を理解してもらうことが大切だと思います。短期的に評価して、だめなところはすぐフィードバックして改善する必要があると思います。 |
| | 3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 指定規則の基準を満たすのは当然のことであるが、育成目標を達成できるための素養、要件を各教員は備えるべく努力し、滋慶学園グループの学生に対する考え方また業務に対する考え方を理解できる教員を確保している。 | 滋慶学園グループの「授業とは」に沿った考え方はもちろんのこと、臨床現場に携わる教員の採用および臨床の継続を推奨しており、現場を離れた後でも最先端の知識、技術を得るために努力できる教員の育成を目標としている。 | 3.0 | 【車野】<br>学生の学ぶ意欲が向上するような指導を意識していただきたいです。<br><br>【金釘】<br>現代ニーズにあった臨床経験のある先生が必要だと思います。<br><br>【與那嶺】<br>臨床現場の症例と教科書に記載されていることは違うことが多々ある為、偏った知識、技術にならない為の支援はありがたいです。<br><br>【川居】<br>臨床現場と携わり、授業にも落とし込むというのはすごく大切だと感じるので今後も続けて欲しいです。 |
| 4 教育成果 | 4-19 就職率(卒業者就職率･求職者就職率･専門就職率)の向上が図られているか | 学科教員、キャリアセンターとの連携により、就職成果、就職状況をタイムリーに把握し、専門就職率100%だけでなく、希望する就職先への就職率をも100%とする。 | 学生の就業意欲を高めるために教員、キャリアセンターからの指導を徹底し、学科教員とキャリアセンター間で就職委員会の定期的な開催、卒業生の就職先への訪問など、就職成果に関する情報収集をしており、卒後の離職を無くすことを目標とする。 | 3.0 | 【車野】<br>在学時代から目標を持ち、就業後も自身で目標を立てられるような人材の育成が必要です。<br><br>【金釘】<br>就職率は高いと思います。キャリアセンターの働きかけが大部分を占めていると思います。<br><br>【與那嶺】<br>求人サイトでは、近畿圏内だけではなく全国の求人情報が掲載されているため、、実際に見学や面接にいった学生のアンケートも見ることができ、有益です。<br><br>【川居】<br>今後も引き続き学生の未来に向けて、良い選択ができるように、キャリアセンターと連携して頂きたいです。 |
| | 4-20 資格取得率の向上が図られているか | 全員が合格すべく教員全体で考え行動すべきである。また個人個人にあった教育指導方法を共有すべきである。<br>合格者についてはもちろんその後の状況も把握している。また卒業生についても同様である。 | 当校の国家試験合格率は全国平均水準レベルを常に上回っており一定以上の合格率を取れるシステムが構築されている。またグループ力を活かした独自の取組も持つ。<br>これらを永続することを目標とする。 | 2.8 | 【車野】<br>国家試験の合格率が高いことは非常に良いことだと思います。<br><br>【金釘】<br>専任教員の方々の、学生に対しての取組みの手厚さがすばらしいと思います。学生自身の意欲の向上がみられると思います。<br><br>【川居】<br>合格率は良いと思います。ただ課題もあるのは事実なので、下の子の引き上げに対して取り組んで頂きたいです。 |